

【南箕輪村】1人1台端末の利活用に係る計画

項 目	内 容
① 1人1台端末を始めとする ICT 環境によって実現を目指す学びの姿	学校における基盤的なツールとなる ICT も最大限活用しながら、多様な子供たちを誰一人取り残すことなく育成する「個別最適な学び」と、子供たちの多様な個性を最大限に生かす「協働的な学び」の一体的な充実を目指す。
② GIGA 第1期の総括	整備内容 ・ハード面 1人1台端末整備、校内通信ネットワーク整備、充電保管庫、大型提示装置（電子黒板）、児童生徒教師に教育クラウド（Microsoft、Google）1人1アカウントの配布、デジタル教科書・学習支援ドリルアプリ・学習eポータル・文部科学省 CBT システム（MEXCBT）・長野県 CBT システム（CBT ミライ）、音声教材の利用整備、教職員の校務支援システムの整備 ・ソフト面 1人1台端末を使用するにあたり学校でのルール、家庭に持ち帰ったときのルールの作成。各校セキュリティーポリシーの改訂。情報モラル研修の実施。情報通信技術支援員（ICT 支援員）の配置。家庭へのサポート窓口（ヘルプデスク）の設置。 ハード面における課題と解決策 ・故障頻度の増加に伴い代替機貸与までに破損端末の使用等で端末活用に支障が生じるため、端末整備は国の補助金を活用し予備機15%最大限整備し、故障時でも確実に児童生徒に1人1台配備する。 ・校内通信ネットワークの速度が出ていないため、ネットワークアセスメントを実施し、その結果を踏まえ、文部科学省「学校のネットワーク改善ガイドブック（令和6年4月）」に記載されている学校規模ごとの推奨帯域を目指す。 ソフト面における課題と解決策 ・学校間で端末活用率やデジタル教科書の活用に格差があるとともに、教師の活用指導力にも差が出てきているため、情報通信技術支援員（ICT 支援員）による ICT 研修、長野県の教師の ICT 活用指導力向上の出前講座、文部科学省の学校 DX アドバイザーを活用し推進する。 ・学校現場におけるクラウド活用が未浸透であるため、クラウド活用と校務の DX 化の積極的な推進を図る。
③ 1人1台端末の利活用方策	【個別最適・協働的な学びの一体的な充実】 1. 個別最適な学びの促進: デジタルドリル教材や Google Classroom・Microsoft teams を活用し、生徒が自分のペースで学習できる環境を整える。これにより、個々の理解度や興味に応じた教材を提供し、個別最適な学びを実現する。 2. データ活用によるフィードバック: 端末を通じて得られる学習データを分析し、生徒の進捗や理解度を把握する。教師はこのデータを基に、個別指導や適切なサポートを行うことで、学びの保障を強化する。 3. 協働学習の促進: グループワークやプロジェクト学習をオンラインで行うためのツール（例：Google Classroom、Microsoft Teams

	など）を活用し、生徒同士のコミュニケーションや情報共有を促進する。これにより、協働的な学びを深める。 4. 多様な学習スタイルへの対応: 動画、音声、テキストなどの教材を提供し、視覚・聴覚・体験を通じた学びを実現する。これにより、異なる学習スタイルに対応し、全ての生徒が学びやすい環境を整える。 5. 保護者との連携: 保護者と情報を共有し、家庭での学びを支援する。休日の持ち帰り学習時における相談窓口（ヘルプデスク）を開設することで、家庭学習をサポートし、学びの保障を強化する。 5. 教員の研修とサポート: 教員が ICT を効果的に活用できるよう、定期的な研修を実施する。
--	---